



強震動委員会

Strong Ground Motion Committee

強震動委員会は、1996年5月の発足以来、学会内外に向けて様々なアウトリーチ活動をおこなっています。

ホームページの運営 <https://www.zisin.jp/kyosindo/kyosin.html>

委員会ホームページで最新情報や過去ログなどを配信しています。
詳しくは強震動委員会ホームページへ。



QRコード
強震動委員会HP

強震動講習会

2001年度より、「強震動予測—その基礎と応用」と題した講習会を会員・非会員を対象に毎年続けています。現在は日本地震工学会、日本活断層学会、物理探査学会と共催しており、実習形式を試みるなど好評を博しています。次回の**第23回は2024年11月25日(月)にハイブリッド(対面は東京大学地震研究所)**で開催予定です。

詳細は、強震動委員会WEBページに掲載中です。

最近の講習会のテーマ

回	日付	テーマ
21回	2022/11/29	地下構造のモデル化とその地震動への影響
22回	2023/11/28	強震動予測手法と浅部地盤の非線形応答
23回	2024/11/25	膨大な強震記録を活用した強震動予測



過去の講習会の様子

左: 東京工業大学田町キャンパスイノベーションセンター国際会議室
右: 東京大学地震研究所一号館セミナー室AB

強震動研究会

年に1、2回のペースで、秋季大会または委員会開催に合わせて関連他分野から講師を招いて研究会を実施し、一般にも公開しています。**2024年10月20日(日)には、第43回目となる研究会を朱鷺メッセ301号室で開催しました。**

最近の研究会の題目

回	日付	講演者(ご所属): 題目
41回	2023/10/30	吉田律人(横浜都市発展記念館): 関東大震災と横浜—歴史学の視点から—(対面開催)
42回	2024/01/16	林 孝幸(東京海上ディーアール): 地震保険と地震学 —相互発展に向けて—(ハイブリッド開催)
43回	2024/10/20	片桐昭彦(新潟大学): 前近代における地震と史料(対面開催)

ニュースレターでの連載記事

2020年1月～2021年9月には「**新・強震観測の最新情報**」(全21回)の連載を、また、2017年1月～2019年3月には「**新・強震動地震学基礎講座**」(全25回)の連載を行いました。これらは、強震動委員会WEBページでご覧になれます。さらに、単行本として再編集し出版する予定です。

大会セッション企画など

強震動研究を中心とした関連研究分野における議論の充実を図るため、学会大会等における特別セッションを企画提案してきました。日本地球惑星科学連合大会では、2012年「2011年東北地方太平洋沖地震の強震動と地震動災害」をはじめ、2015年「兵庫県南部地震から20年: 活断層と強震動に関する研究の進展」、2016年「K-NET運用開始から20年: 強震観測網のこれまでとこれから」、2017年「震源域近傍強震動の成因解明と強震動予測への展開」のセッションなどが設けられました。また、2018年12月には、日本地震学会を含め11学会が共催した第15回日本地震工学シンポジウムにて、セッション「長周期地震動から断層近傍パルスまで: 予測と対策に向けて」が開催されました。

2023年10月には、米国地震学会(SSA)と日本地震学会(強震動委員会が窓口)の共催により、「Future Directions: Physics-based ground motion modeling」と題した研究集会をカナダ・バンクーバーにおいて開催しました。日本地震学会からも、学生や若手を含む約20名の参加があり、活発な議論が展開されました。

出版

これまでの委員会における活動の中から、「地震の揺れを科学する—みえてきた強震動の姿—」東京大学出版会(2006)が上梓されました。ニュースレターに連載された「新・強震動地震学基礎講座」と「新・強震観測の最新情報」を単行本として再編集し出版する予定です。

